



文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

※最新版を、<http://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf01.pdf> から、直接にダウンロードできます。

生徒指導リーフ

Leaf over the theory and practice on Seitoshidou!

生徒指導って、何？

Leaf.1

生徒指導・進路指導研究センター

生徒指導とは、…

生徒指導とは、社会の中で自分らしく生きることができる大人へと児童生徒が育つように、その成長・発達を促したり支えたりする意図でなされる働きかけの総称のことです。

すなわち、

学校生活の中で児童生徒自らが、その社会的資質を伸ばすとともに、さらなる社会的能力を獲得していくこと（社会性の育成）

そして、

それらの資質・能力を適切に行使して自己実現を図りながら自己の幸福と社会の発展を追求していく大人になること（社会に受け入れられる自己実現）

そうしたことを願って児童生徒の自発的かつ主体的な成長・発達の過程を支援していく働きかけのことを、生徒指導と呼んでいます。

◆児童生徒が自発的かつ主体的に自己を成長させていく過程を、支援する。

◆集団や社会の一員として自己実現を図っていく大人へと育つよう、促す。

例えば、こんなことも生徒指導

様々な学校場面で何げなく行われている働きかけの多くは、児童生徒の成長・発達を促したり支えたりする生徒指導の働きかけのはずです。以下に、幾つかの例を示します。

登校時や授業の場面では

登校時の朝のあいさつにはじまり、始業時のあいさつ、終業時のあいさつなどを促す。

始業開始とともに着席すること、
正しい姿勢で机に向かって学習すること、
教師やほかの児童生徒の話に積極的に耳を傾けること、
自らも積極的に考えたり発言したりすること、
…などを指導する。

授業中に、教科の授業を通して獲得した知識や技能を、どう活用したら自分や周りの人々が幸せになるのかを思い描かせる。



学校の教育目標や、学年・学級のめあて、校訓や建学の精神等によって目指すべき人間像を示す。

道徳教育や特別活動、キャリア教育などの場面では

自己の言動や生活態度をより好ましいものに高めるよう問いかけ、見つめ直させる。

友人関係について考えてみたり、異なる学年や異なる世代の人と積極的に交流したりする機会や場を与えて進んで活動させたりする。

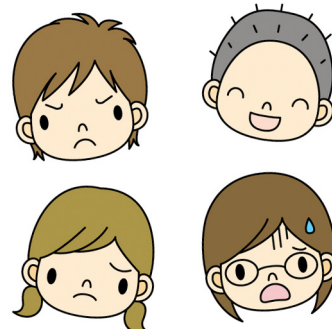
将来のために、今、何をすべきか諭したり、自分の生き方や将来の職業等について思いをめぐらすよう示唆したりする。



特別支援教育や教育相談の場面では

他人に迷惑をかけるような行為を心ならずも行ってしまいう児童生徒に向き合い、学校や社会にうまく適応が図れるよう配慮する。

自分自身について悩んだり、人間関係に傷ついたりした児童生徒を受けとめ、次の一歩を踏み出せるよう支えていく。



◆ふだんから、当たり前のように行っている児童生徒への働きかけのほとんどは、十分に自覚されていないだけで、実は生徒指導。

◆児童生徒の成長・発達を促したり支えたりする意図でなされる働きかけという明確な自覚を持ち、適切に行っていくことが大切。

問題行動等への事後対応の場合でも…

いじめや暴力行為の事後対応、学校を休みがちな児童生徒への対応などは、もちろん、生徒指導の働きかけです。その際にも、社会に受け入れられる自己実現や社会性の獲得を促す働きかけが重要です。

日々の注意や非行防止の場面では

ほかの児童生徒の学習を妨げたり、学級や学校の約束を守らなかったりした際には厳しく注意し、「悪いことは悪い」と伝える。

自他に対して危害をもたらすような行為について知らせ、問題を回避できるよう促す。

★ワンポイント・アドバイス★

意図的・計画的に行うことが大切！

この資料で紹介したとおり、生徒指導には幅広い働きかけが含まれています。もちろん、これ以外にも様々な生徒指導が行われていることは言うまでもありません。しかし、それらのほとんどはとりたてて目新しさのないもの、従来から当たり前のように行われてきたもの、との印象を与えることでしょう。特に日本の学校教育においては、教師がそうした働きかけを行うことはごく普通のことと考えられてきただけに、なおさらでしょう。

ただ、ここで問題にしたいことは、そうした当たり前のことを、生徒指導の働きかけという自覚のもと、全ての児童生徒を対象に、計画的かつ確実にやっているという自信を持って答えられるかどうか、そのような体制になっているのかどうか、なのです。同じような働きかけを行ってはいても、個々の教師が時々の必要性から判断してやっている、気がついたときに行うようにしている、気になる児童生徒には行ってきた、一部の教師が責任を持って行っていると思う、可能な限り行っているが十分かどうか自信はない、正直言うと生徒指導を行っているという自覚は持っていなかった…などの状況であるとすれば、意図的に生徒指導が行われているとは言えません。

教職員が児童生徒に熱心に接していれば自然に生徒指導の目的が達成されていく、というわけではありません。生徒指導を行っているという明確な自覚のもとに、適切に働きかけを行っていくことが求められます。そして、全ての児童生徒に対して、必要な働きかけが十分に行われているかどうか、その成果が現れているかどうかを確認しながら日々の取組を計画的に行っていくことが必要です。つまり、以下の2点が重要なのです。

①自校の児童生徒をどのような児童生徒へと育てていくのか、どのような働きかけであれば望ましい大人へと成長・発達していってくれると考えられるのかを明確にし、それが実現するような働きかけを計画的に行う。

②それと同時に、臨機応変に行われる時々の働きかけについても、同じ一つの方向性の中でなされていくようにする。

そのためには、児童生徒の実態を踏まえた生徒指導の視点を加味して、教育課程を編成することが求められるのです。

★もっと詳しい情報についてお知りになりたい方は、以下のアドレスにアクセスしてください。

当センターで作成した調査研究報告書等一覧：<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/3.htm>



文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

編集 生徒指導・進路指導研究センター
TEL 03-6733-6880
FAX 03-6733-6967
初版発行 平成24年2月
2版発行 平成27年3月